

登米市迫川におけるオオハクチョウの繁殖

狩野 博美

989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味

国指定鳥獣保護区管理員

2015年8月8日、宮城県登米市迫川(38°41'N, 141°11'E付近)において、オオハクチョウの成鳥2羽、幼鳥3羽の家族が観察された。日本国内におけるオオハクチョウの自然繁殖は、釧路市や秋田県象潟町、ウトナイ湖(川崎慎二 2003)で繁殖した例がある。今回観察された幼鳥は営巣時から観察されたものではないが、過去の記録から日本国内南限での繁殖例となると考えられ、ここに報告する。

観察された場所の迫川は、宮城県栗原市と登米市を流れる北上川水系旧北上川の支流であり、冬期にはオオハクチョウやコハクチョウが越冬する。宮城県では鳥獣保護センターがないため、迫川など河川の一部は、怪我をしたハクチョウ類の収容先となっており、残留ハクチョウ類がみられる。

短時間の観察であったため、成鳥2羽が飛翔不能かどうかは不明であったが、幼鳥3羽は時折羽ばたきをみせ、その様子からは怪我をしているようには見えなかった。また、100mほど上流には残留した10羽のオオハクチョウ成鳥がみられた、それらの群れと交わることはなく、中州で草本類を採食したり、休息した。

今回、営巣場所や雛の目撃情報等はえられていないが、幼鳥3羽は、嘴や足の色、羽色から2015年生まれの個体であり、その内1羽の幼鳥は風切羽の状態から長距離飛行は難しいと考えられるため、周辺で繁殖したもので間違いのない(小西敢 私信)と旨の回答を得られた。

謝辞

本論の報告に当たり、日本白鳥の会事務局 小西敢氏には繁殖事例や幼鳥の形態的特徴についてご教示いただき、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 嶋田哲郎博士には原稿を読んでいただきました。記して深謝申し上げます。

引用文献

川崎慎二.2013.ウトナイ湖におけるオオハクチョウの繁殖例.日本の白鳥 27:9-23.

Hiromi KARINO. Breeding of Whooper Swans in Hazamagawa, Tome City.



図1.幼鳥3羽と成鳥1羽、草本類などを採食したり、休息している様子
(2015年8月8日撮影:狩野 博美)



図2.写真左、風切羽が揃っていない幼鳥(一番左)
(2015年8月8日撮影:狩野 博美)